

手を挙げて満員の観衆に応える神取(左)とジャガー横田(右)名古屋市のZepp Nagoyaで



### 神取がジャガーとタッグ 女子プロLLPW名古屋大会

女子プロレス団体LLPWの名古屋大会が8日、名古屋市中村区の「Zepp Nagoya」で行われ、神取忍や井上貴子らが熱戦を繰り広げた。

場外乱闘あり、宙を飛ぶ大技あり、LLPWならではのにおかませスライターの対戦あり。満員の観客を存分に楽しませた。タッグマッチでは神取(LLPW)とジャガー横田(フリー)のタッグが実現。神取が両腕のラリアットで相手2人を同時にマットに落とすと、ジャガーもロープからの

投げ技を出す。ハレー斉藤(LLPW)、小林華子(伊藤道場)組を下した。

この大会は自動体外式除細動器(AED)の普及を目的とした興業。名古屋市内で医院を営みながら、プロレスラーとして施設の慰問などをしている浅井富成医師とLLPWがタッグを組む形で初めて企画した。普及活動に力を入れている神取は「AEDの設置は増えたが、使える人が少ない。スポーツ選手で団体をつくり広めていきたい」と話した。(高橋雅人)

**AED使い方説明**  
主催の浅井医師ら  
○: 試合の間には大会を主催した浅井医師らが自らデモンストレーションでAEDの使い方を説明した。プロレスの試合中に浅井医師が技をかかけられて心肺停止になったとの想定。公立陶生病院(愛知県瀬戸市)の味岡正純副院長が指導する中、対戦相手が人工呼吸や心臓マッサージなどを施して、AEDを使い電気ショックを与えて蘇生(そせい)させるまでの一連の流れを実演した。

舞の海さん(近藤) NHK大相撲の舞の海秀平

### 長谷川(6年)横綱に輝く

わんぱく相撲名古屋場所 第27回わんぱく相撲名古屋場所(中日新聞社後援)が8日、愛知県体育館で、約800人が参加して行われ、6年男子決勝で長谷川聖記(稲永)が丸山正都(港西)を寄り倒して優勝、一昨年の4年生以来のわんぱく横綱に輝いた。この大会の4、5、6年の優勝者、準優勝者が6月20日に蒲郡市で行われる愛知プロレス大会に出場する。

気迫の当たり勝ち 4年生の時、長谷川は決勝でこの日の相手、丸山に勝って優勝し、全国大会にも初出場した。しかし、昨年は同じ相手に予選で敗れた。常にライバルだから「きょうは絶対負けたくない」と、必勝を誓って臨んだ大会だった。

気迫の立ち合い 長谷川は思っていたより突進し、当たり勝ち。あれで流れたが自分の方にきた」と自分分析。前に前に出



山に勝って優勝し、全国大会にも初出場した。しかし、昨年は同じ相手に予選で敗れた。常にライバルだから「きょうは絶対負けたくない」と、必勝を誓って臨んだ大会だった。

気迫の立ち合い 長谷川は思っていたより突進し、当たり勝ち。あれで流れたが自分の方にきた」と自分分析。前に前に出

て、相手を圧倒した。「昨年は、本心に悔しかった」という。本来は右四つで出し投げを打つのが得意の相撲のパターンだが、この日は161kg、74kgの恵まれた体格を生かしての寄りに徹し、会心の勝利。「良かった」と笑みがのぞく。相撲は保育園の年長組から始めた。4歳年上

【男子】4年 ①濱野(大野光史・富田) 成大水産▽5年 ①(味鏡)の川崎要(城崎) 剛紀(野田)▽6年 ①(稲永)の丸山正都(佐野圭佳・下野)

兄・凡記(現愛知高1年)が「津島ラプ」にいて、「兄と一緒に相撲たかった」。それ兄と同じ道を一筋に歩くことで、大相撲場所まで恒例になる絵画コンクール(連年連続で入選中。2度目の全国大会(愛知技館)を目指し、最後の予選を知プロレス大会)にあり、8人出場枠を争う。上時は楽しかった。最後ですからと燃えている」と燃えている。(近藤)

●浜松・東三河出場メンバー●

【先発出場】	年齢	出身校	得点
太田 和利	28	(近大)	21
ジャッキー・ラザフォード	28	(近大)	17
ウェンデル・ホルト	25	(近大)	17
伊藤 拓郎	26	(近大)	17
【途中出場】			
ジャメイン・グリーン	29	(近大)	10
大岡 真洋	26	(天理学院大)	3
岡田 慎吾	26	(天理学院大)	2
ウィリアム・ナイト	31	(天理学院大)	19

【注】白抜きは主将

と中村和雄ヘッドコーチが話すようにここからが浜松の真骨頂。エースのホワイトが、厳しい体勢から3ポイントを連発。その後5ファウルで退場するハブニングこそあったが、その後岡田、ラーカイが順調に得点を重ね、終わって

プロバスケットボールのbjリーグで、東カントリーが2年連続1位を決めている浜松・東三河は8日、浜松アリーナで仙台と対戦し、103-93で快勝。今季40勝目を挙げた。9日にある仙台との最終戦に勝てばリーグ最高勝率に並ぶ。末週から始まるプレーオフ・セミファイナルへ最高の弾みがつく。

圧倒的な強さで2年連続の東カントリー1位を決めている浜松・東三河が底力を見せつけ、2位の仙台を突き放し今季40勝を挙げた。後半開始時の最大17点差が第4クォーターの半ばでは2点差に迫られ、あわやのシーン。しかし「全く焦りはなかった」と中村和雄ヘッドコーチが話すようにここからが浜松の真骨頂。エースのホワイトが、厳しい体勢から3ポイントを連発。その後5ファウルで退場するハブニングこそあったが、その後岡田、ラーカイが順調に得点を重ね、終わって

# 浜松・東三河

2年連続東カンファレンス1位・最終戦も勝ってプレーオフ進出

32沖勝19敗	33大勝18敗	13高勝38敗	25新勝26敗	40浜勝11敗
19勝85敗	18勝98敗	38勝86敗	26勝83敗	11勝103敗
23192320	24272720	30182018	27181523	26222728
26161318	23252029	21142219	2491222	22321821
73大勝26敗	97福勝21敗	76京勝35敗	67埼勝35敗	93仙勝16敗
26勝85敗	21勝98敗	35勝86敗	35勝83敗	16勝103敗

## 中部スポーツ 応援宣言



「浜松では勝ち続けているし、最高の結果」としながらも「ここからが一番大事。最終戦もいろいろ」

キャプテンの大口は、「浜松では勝ち続けているし、最高の結果」としながらも「ここからが一番大事。最終戦もいろいろ」

「チームが丸となって勝てた。いい気分だし文句なし」と胸を張る。第4クォーターでは、5ファウル退場のおまけまでついたが「監督にはもっとアグレッシブにいけ!」といわれている。プレーオフに向けてしっかりと調整していきなさい」と気持ちを引き締めた。

愛院大 浦野(今季3度目)

勝ち点3で首位の愛院大は、(3年) 同2の愛大に14-0で先勝(の完勝)